

- 日 時 平成 29 年 10 月 31 日(火) 14:10～16:40
- 出席者 会長(学識経験者)、学識経験者(高大連携大学)、保護者代表、
地域住民代表者、その他学校関係団体代表者
事務局(校長、教頭、事務長、首席、教育部長、教務部長、生徒指導部長)
- 内 容
- 1 授業見学(6限 14:20～15:10)
 - 2 校長挨拶
 - 3 会長挨拶
 - 4 報告
 - ア) *学校協議会への意見書の提出
平成 29 年 6 月 16 日より平成 29 年 10 月 30 日まで なし
 - イ) 修学旅行について(第 2 学年)
 - ウ) 教育部活動報告(教育部)…異文化交流、外部連携、図書館運営、その他
 - エ) 平成 30 年度使用教科書採択報告(教務部)
 - オ) 9 期生進路中間報告(進路指導部)
 - カ) 生徒指導状況報告(生徒指導部)…遅刻数統計について
 - キ) 共生推進教室報告(共生推進委員会)…活動報告
 - ク) 広報活動報告(広報委員会)…学校説明会、中学校訪問等
 - ケ) 授業研究報告(授業研究委員会)…授業改善取組、教育課題の情報収集
 - 5 授業見学感想
 - 6 質疑応答・意見交換
 - 7 校長謝辞
 - 8 諸連絡
-

<授業見学感想> ○は委員からのコメント ⇒は事務局のコメント

○ICT機器を使用している授業は的確で効率よく、わかりやすい。

○1年生と3年生の違いを感じた。1年生は入学して半年で、頑張っについて行こうとしている感じだが、3年生になると理解しながら聞いている様子で、和気あいあいとした雰囲気も感じられた。

○生徒との対話が活発な授業が多く見られた。多くの生徒が積極的に発言している授業もあった。ぜひさらに多くの授業で取り入れてほしい。

○黒板に掲示物を貼って説明する方法は、一度作った物を何回も使えるので良い。

○プリントにパンチ穴が開いていたり、掲示物がマグネット式だったり、わかりやすい授業づくりのための工夫が凝らされている。

○机の配置は、どのくらいの時間でグループワークを行うのかによって変えてみるのも良いと思う。

○「家庭基礎」の授業は教育課程上どのような位置付けか？

⇒各学校において、「家庭基礎」「家庭総合」「生活デザイン」から1科目を必修としており、本

校では「家庭基礎」が必修科目である。総授業時数のうち、半分以上を実験・実習に配当することとしている。

○数学の授業に、生徒はついて行けているのか？

⇒繰り返し学習する場面も多く、ついて行けていると思う。

<質疑応答・意見交換> ○は委員からのコメント ⇒は事務局のコメント

○演劇講習会はどんな内容か？

⇒毎年7月に1回、専門学校から講師を招へいし、文化祭の劇（クラス、演劇部）実施に向けた一般的な注意点（キャスティング、発声、シナリオなど）について教えていただいております、非常に好評である。

○遅刻が減少しているとのこと、素晴らしい。先生方の粘り強い指導の成果だと思う。

○来年度入学生から大学入試のシステムが変わるとのことだが、授業も変えていかなければならないのか？

⇒単純な問と答だけではなく、答えが1つではない問題や、論述問題が多くなる。全問題が筆記試験のようなもので、受験生にとっては大変になっていくだろう。

○問題の流れをすべて理解していなければ解けないような難問も出てくるだろう。きちんと当てはまる答えを探したり、部分点を得ることが難しくなるかもしれない。大学入試共通テストのモデル問題例は、果たして適切なのかという疑問も感じる。新しい大学入試に向けて、国でもまだまだ試行途上であると思うので、よりよい形に向けて、学校からもどんどん意見を発信してほしい。

○新しい大学入試に対応するために、教育課程をどのように考えていくのか。

⇒本校は総合学科であり、共通履修科目と選択科目で、基礎の上に立った発展的学習が可能である。必要に応じて、開設科目の追加は柔軟に行うことができる。

○地域連携の面では、青少年団体交流会において、ボランティア部が東北ボランティアについて報告予定である。また、食と貧困の問題については地域との関係が密接である。食について授業でも取り組んでおられて心強い。生徒の皆さんには、地域との関わりをもっと持ってほしい。